徳島大学附属図書館

館報

No.33
1985.12.

附属図書館長に就任して
ベビーブームの波間で思うこと
〝ある国際会議に出席して〟
附属図書館の増築について
第6回附属図書館文化行事開催される
昭和61年版購読雑誌の動き

附属図書館長に就任して

川　田　十三夫

本年８月１日付で図らずも附属図書館長に就任することになり，徳島大学附属図書館の管理運営の重責を担うことになり，はなはだ光栄に存じますと共に，その責任の重さを痛感しています。去る３月末に故浦川館長がご入院になり，間もなく４月18日にご逝去されるという，全く予期せぬ痛恨事の後を受けまして，蔵本分館長の職にありました私が館長事務取扱に併任されました。昭和60年度の予算編成及び後任の館長候補者の選出，次いで分館長の選出という大任を果たさねばならぬという立場になりましたが，図書館運営委員，図書館職員のご協力を得，また，各学部・教養部の暖かいご理解とご支援を得て，一応これらの課題を無事に消化できましたことを関係の皆様に感謝申し上げます。

さて，附属図書館の現況と展望にふれ，館長就任の挨拶にかえさせていただきます。

蔵書の累進的増加に伴い，本館の増築企画につきまして，昭和53年頃，竹治館長の当時すでに提案され，具体化しましたのは小林館長の時代でした。小林館長はじめ図書館運営委員，特に常三島地区の委員の方々には増築のための立地，設計にいたるまで審議を重ねられたと伺っています。この企画は学長はじめ大学当局の絶大なご支援，ご協力の下に進行し，昨年８月25日に着工し，本年３月25日に竣工しました。故浦川館長は病軀をおして竣工検査に立合われました。本増築は３階建，延面積1,620平方米で，1階は集密書庫で26万５千冊収容可能です。２階は学習図書の開架閲覧室，３階は視聴覚室，特殊資料室および研究雑誌閲覧室に当てられています。夏休み中に図書・雑誌の移転，配備を終え，９月から利用できるようになりました。この増築により本館の蔵書収容能力は約50万冊まで可能となり，また，閲覧室の席数も大幅に増えて，かなり余裕ができました。学生・教官の方々にこれまでに比べより広々と快適に利用いただけるようになりました。ただ，増築に伴う冷暖房による光熱水料の増加のため，緊縮財政下，経費増大の懸念もありますが，大学当局の暖かいご理解をお願いします。ともかく，利用者の方達によりよい環境下で図書館を十二分に活用いただけることを期待しています。なお，蔵本分館でも蔵書の収容能力の限界に

近づきつつあり，書庫などの増築を鋭意企画中です。

本館の増築により建物は一応整ったのですから，今後は大学図書館としての機能を充分発揮するために，図書・雑誌等の資料の量と質の充実，利用者へのサービスの向上を図ってゆかねばなりません。

図書館の業務の電算化，機械化は小林，浦川前館長および館員の真摯な努力により着実に進展し，昨年４月には閲覧業務が電算化され，借用・返却等の手続の簡素化，貸出可能冊数の増加，貸出予約制の導入，延滞者の常時把握が可能となる等の利点が生じています。しかし，この閲覧サブシステムを支える統計処理，書誌データの入力・補正の渋滞という問題点がでています。また，東京大学文献情報センターとの関連がある図書サブシステム，目録サブシステム，雑誌サブシステム，予算サブシステムの開発を目指しており，これらのサブシステムはＦＡＣＯＭの端末機を設置することにより，導入が可能となります。しかし，これらの電算化を実現するためには予算および人的組織の両面に問題があり，今後広い視野からの検討を要します。学術情報の多量化，多様化が急速に進む時に，図書館のあるべき将来像を考えますと，大学図書館として電算化，機械化導入への努力を一層傾注すべきであり，館員の不断の精進が求められます。

事務機構の整備として，本館に情報調査係の設置があります。すでに蔵本分館にはこの係があり，学術情報の増大，多様化に対応して学内外からの情報の収集，利用者への情報検索，相互利用等に幅広く活動しています。昭和61年度の概算でこの係を本館にも設置することを要求しています。最近の図書館の業務の急速な増大にもかかわらず，館員数は全く増員されていません。従って，図書館業務のかなりの部分は非常勤職員により充足されている現状です。図書館経費のうち50数％が人件費に当てられ，図書館本来の活動費は年々減少をよぎなくされています。図書館として館員の増員は緊急な要望であり，概算でも要求し続けています。しかし，現状打開はなかなか困難ですが，その打開に一層努力を注ぐつもりです。

大学図書館は学習図書館と研究図書館としての機能を併せもっており，両機能は大学図書館にとって不可欠な機能であり，相互に不可分な関係にあると思います。常三島地区では教官，大学院生のための研究雑誌の集中化がほとんど行われていないため，本館の研究図書館としての機能はかなり欠けているといわざるをえません。常三島地区では研究者の専門分野は大きく人文系，自然科学および工学系とにわかれ，さらにそれぞれ専門領域のことなるいくつかの部門があり，また，これまでの経緯から，研究雑誌は各学部ないし学科，講座単位で収集，保管されていて，本館に集中化されていません。従って，本館には研究雑誌はきわめて乏しく，閲覧室にも教官，大学院生の人影はほとんど見かけません。これでは本館は学習図書館にすぎず，研究図書館として機能しているとはいえず，大学図書館として今後の大きな課題であります。

大学図書館は教官，学生の研究教育上，また，学生の教養の場として，大学の中枢をなす全学的共同利用施設であり，図書館長はその管理運営の最高責任者として，大学における地位はきわめて重要な管理職であります。大学図書館基準にも「館長の責務の重要性にかんがみ，大学内における地位は学部長等と同等あるいはそれ以上でなければならない」と規定しています。しかし，残念ながら本学では館長は大学の管理運営等の重要事項を審議する評議会のメンバーに加えられていません。すでに多数の国立大学では館長は評議員に加えられています。昭和45年に図書館運営

委員会において館長の評議会への参加の必要性が確認され，学長へその要望書がだされ，大学改革委員会でも検討されましたが，今日に至るまで実現していません。この課題は歴代の館長から引き継がれている懸案で，本学における図書館の位置付けの問題であり，学長はじめ評議員，教官各位の正当なご判断とご理解により，館長の評議会への参加が近く実現されることを確信しています。

今後，図書館長として，蔵本分館長，図書館運営委員並びに図書館職員各位と一致協力して，全学的立場で図書館の当面する諸問題を検討，解決してゆく所存です。大学当局はじめ利用者の方達のご支援，ご協力をこの機会にお願いする次第です。

（昭和60年11月１日，附属図書館長）

ベビーブームの波間で思うこと

金　森　憲　雄

なんとまあ可愛らしい，と目を瞠り，リズムに乗り切った足の運びに，巧いなあと感心したその興奮もさめやらぬままに，傍をすり抜けようとする濃紫の影に声を掛けた。「歳は幾つ？」「９才」と消え入りそうな応えが返る。菅笠を小脇に，うつむき加減のうなじには子供らしいはにかみが一杯に拡がっていた。そのさおりちゃんを今年も見掛けた。齢よりは小柄で，阿波女らしからぬほっそりとした姿は，弱々しいまでに優しくリズムを刻む。15歳。私が初めて徳島の土を踏んだあの年から６年が経つ。歯学部発足から指を折れば，もう９年である。

チビッ子が優雅な中堅踊子に成長したように，９年の歳月は様々な変化を宿す。そのひとつが，ここ数年歯学部に起っているベビーブームである。このブームはまだ暫く続き，いったん下火になった後は再びピークを迎えることはないと予測される。何故？それを解くキーワードはSynchronization（同期化，同調）である。歯学部が発足した後，第１期生の進級に対応しつつ，約５年間を掛けて講座その他の全容が整えられた。教官やベテラン事務官は配置転換等によって集められたが，それとは異って新規に採用された人々もいる。ベビーブームの主役を演ずるのはその人達である。たとえば，補手・副手と呼ばれる技官の大部分は，学校出たての女性であった。現時点で全員現役，活着率100％を誇る53年軍団は一騎当千，個性豊かな阿波女達だ。54年任用組は半分に減ってしまった。花の55年組は美人揃い。うち連れて昼食に出動する彼女達の姿は衆目を惹き，「歯学部には美人が多い」とあらぬ誤解（？）と羨望を生む一助となった。欠員補充の為56年57年と採用は続き，以前に勝る名花が多かったから，看護婦さんや衛生士さん達の存在とも合せて，誤解は定着の様相を呈している。このように，諸条件が比較的よく揃った集団では，様々な事が一斉に（即ち同期して）起る。素敵なお嬢さんばかりであったからその売れ行きは速く，改姓届が相次いで現在は若奥様の群と化した。彼女達ばかりではない。助手や医員も若い男女で占められていたから事態は大差なく，或る時期「結婚祝ばかりで出費が嵩む」と教授・助教授がボヤいていた教室もあった。となれば，次に来るものは出産祝の波であろう。ことはその通りに進んだ。体をかばいながらゆったりと歩む婦人の姿は，キリリとした働く女性のそれとはまた異なり，母性の優しさを

にじませて美しい。そのように目立ちはしないけれど，「子供ができたからにはちゃんと将来設計を」と覚悟を新たにする医員もいるし，助教授・講師層だってまだ若い。はては，晴れて父親となった学生や，まもなく母親にならんとする女子学生まで加わって，蔵本分館周辺（歯学部は分館に隣接）は，ちょっとしたベビーブームのピークにある。

学生諸君の奮闘はともかくとして，歯学部にベビーブームが訪れるべき必然性は，既にみたように，国立大学の運営規定と日本社会の風習に根ざしている。公務員試験を媒介として，有資格者の年齢層が圧縮されている事。比較的限られた時間内に採用を完了する事。結婚適齢期なるものが存在する事。産児制限もしくは意識的な受胎遅延が，徳島では盛んでないらしい事。これだけ条件が整えば，集中的な出産現象は当然である。第２のピーク出現が無いとの予測は，この後このような同期化条件は満されまいと判断される事による。裏返せば，同期現象には原因が存在すると言って良い。

国勢図会をひもとけば，頭でっかちになりつつある我国の人口ピラミッドを見出すことができる。両側に突き出た２対の角は，第一次と第二次のベビーブーム。ひときわ目立つ鋭い落ち込みは，ヒノエウマの迷信が全国的に同期的受胎抑制を掛けた結果だ。それとは逆に，戦争と言う抑制が解かれた（脱抑制と呼ぶ）結果，同期的な出産率向上が第一次ベビーブームをよんだ。この最盛期に当る人々は団塊の世代と呼ばれ，「やつらが通った跡はペンペン草も生えない」と揶揄される程の厳しい競争社会を作り出している。同期的出産増について，彼等には何の責任もない。しかし，その結果だけは引き受けさせられるのである。この世代に限らず現代は，そもそも生れ出る事自体が不幸な時代なのかもしれない。生老病死の苦を説くまでもなく，昨今流行のイジメとやらを手始めに，待ち構える苦痛の種は山程ある。そして，その責任の殆んどは，生れて来た者にではなく，それ以前に社会を構成していた者に有る事が多い。

敗戦，即ち戦後の始まりが国民生活に同期化を起し，ベビーブームを作り出した。だとしたら，最近声高に語られる戦後政治の総決算とは，一体何を新たに同期させようと言うのだろう。同期し高揚した世論は，建国直後の新興国のものである。成熟した民主主義に，ファナチックな同調の波は似合わない。操作され，方向を誤った波が何を起すか，人口ピラミッドに視点を戻そう。第一次ベビーブームのやや上方，年を経て目立ち難くはなったものの，いまなお明らかなへこみが男性の人口構成に認められる。戦争による人口減，と解説文は教えてくれる。近隣諸国を踏みにじり，非道の限りを尽した報いが，この疵跡となって残っているのである。悪逆の実行行為者であった兵士達は，紛う方なく加害者である。これを指して，国を護ったの，平和の礎だのと言う言いくるめが許されてはならない。しかしまた，死んで行ったひとりひとりは，やはり戦争犠牲者でもある。このような犠牲を強いた事の責任は，納得のゆく形で決着がついているとは言い難い。そして，犠牲者を供出したと言う意味でも，また，それをとどめ得なかったと言う点でも，大学がこの悲劇と無関係であった訳ではない。

学園から引き剝されるように戦場へ送られた予備学生・予備士官達が，上官の目を盗みながら書物を持ち歩き，貪るように読んだ事が，彼等の手記から窺われる。読まれた本は実に多彩である。「学生時代はあまり勉強しなかった」と回想する者も，「生きて帰ったら思いきり学問がしたい」と呻きをあげる。その時彼等の胸に去来したものは，チョークが軋る講義室の光景であろうか，あるいはまた，森閑とした図書館の閲覧室にしのびよる

薄暮の影であったろうか。しかし，時の流れは彼等を呑み込んで還さなかった。徳島県に生れ，九州大学を卒業した見習士官・武井脩が，「わが愛する妻よ。……広東ではイブシ銀で加工した，めのうのブローチと白い石の指輪を買った。けれど，あなたに送るてだてもない。この手紙だって，あなたの手にはいることを期待することはなかなかできないのだ」〔光文社『15年戦争』〕と嘆いたのは，ビルマで27歳の生を終える２年余り前の事だった。彼はまた，出征前に次のように書き記す。「東條首相といふ男はひげを生やした浅蜊のやうな顔をしてゐます。この介殻のなかで歴史の虹が織られるのです。東條は詩人だといふことになるのでせうか。呵々。」〔東大出版会『きけわだつみのこえ』〕

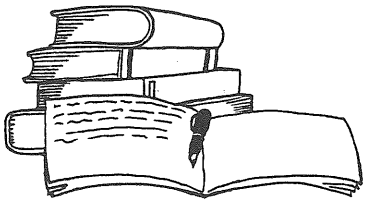
キナ臭さが日増しに濃くなりつつある昨今，詩人気取の浅蜊達がドス黒い歴史の虹を織り返し始めていないと言い切れる大学人が何人いるだろう。このミニベビーブームに生を受けた可愛い命が，英霊などとおぞましい名前でよばれる日の無からん事を望むのは，独り私ばかりではあるまい。そうさせない事の責任は，現社会の実権者たる我々にある。産着にくるまれた嬰児連，そしてあのさおりちゃん達の世代も，その結果だけを引き受けさせられるのである。盆の踊りは，この後も平和裡に続くのだろうか。願わくば健やかに成長し，頭上に暗雲を戴くことなく，彼等が踊り行く姿の見られんことを祈りたい。

（歯学部口腔生理学　助教授）

本学教官著作寄贈図書

（昭和60年４月～10月受入分）

著者名	書　名	寄贈者	配置個所
山田　正興	Architecture in Histology.　廣川書店	山田　正興	蔵本分館
高杉　益充	薬剤識別コード事典 昭和60年改訂版 医薬ジャーナル社	高杉　益充	〃
徳島大学歯学部附属病院薬事委員会	徳島大学歯学部附属病院医薬品集　徳島大学歯学部附属病院	宮田　一好	〃
高杉　益充 奥田　昭雄	慢性疾患治療薬　長期投与薬剤事典　医薬ジャーナル	高杉　益充	〃
高橋　義造	計算機方式　コロナ社	高橋　義造	本　館
村上　光太郎	徳島県薬草図鑑上，下　徳島新聞社	村上　光太郎	蔵本分館



〝ある国際会議に出席して〞

馬　場　則　夫

1985年7月，私は，オランダで開かれた〝3rd Working Conference for Knowledge-Based Modelling & Simulation Methodologies〞に参加しその後オーストリアＩＩＡＳＡ研究所（国際応用システム解析研究所）を訪れる機会を得たが，その時に感じたことを（オランダでの会議を中心として）少々述べさせていただきたい。

まず，送られてきたプログラムにびっくりした。ややなんと，昼食前に〝Sports〞の時間が〝ばっちりと〞とられてあるではないか。（昼食は確か1時半からとなっていたと思う。）なんという愉快な人種の集まりであろうかと胸をわくわくさせながらテニスのラケットを持って出かけたのを思いだす。（それにしてもラケットとテニスシューズは重かった。）結局は，事務局の手違いでこの試みは実行されず，会議終了後適当に相手を見つけてプレイすることとなったが，それにしてもなんというすばらしいアイディアであろうか。スポーツをされない人達はコーヒーを飲みつつ研究の打合せをするもよし，あるいは森の中を散歩しながら物思いに耽けるのもよし，とにかく最高のプランだと感じた次第である。

会場周辺の見事さにも驚かされた。オランダが誇る総合スポーツセンターNSF-PAPENDALの中央にぽつんと立った白い建物の一室で会議は行われたが，この周囲には，ゴルフコース，陸上競技場，サッカー競技場，テニスコート等々ありとあらゆるスポーツ施設が揃っていて，スポーツ愛好家にとってはまさに地上の楽園という感じであった。サイクリングコースもあり，会議終了後遠く離れた北欧の放牧風景を眺めながら走るのはまた格別であった。宿泊施設は，MOTEL WEST-ENDの名からは想像も出来ない程，小ぎれいであった。（オランダというと，我々は人口密度の高い小さなせせこましい国を想像しがちであるが（少なくとも私はそうであったが），このあたりの優雅な伸び伸びとした風景にはいささか驚かされた。（しかし，これは当然のことなのかもしれない。なぜなら，オランダは国土の殆んどが平地で，すべて農耕・居住・牧畜に適しているが，わが国は国土の過半が山地であり自然条件がまるで違うのだ。）

会議における討論の凄まじさにも触れておかねばならない。50人程度のテーマを絞ったWorkshopではよく経験する事であるが，15分の討論時間（発表時間30分）がまたたく間に過ぎてしまう感じであった。〝人の話を良く聞いてから自分の意見を述べよ〞とは大切な教え（大きなことを言える自分ではないが）ではあるが，このような会議であまりそれにこだわると己れの発言機会を失う場合さえある。質問が終ると1秒も経たないうちに手をあげるという状況であるから，必要があれば遠慮は無用こちらも嘲笑を覚悟の上で出てゆく態度が大事だ。（それにしても，アメリカからきた若者の活発さには恐れ入った。一番前に〝デン〞とすわり，休む間もない程質問しているのだから。我々も少しは彼の良い所を見習う必要があるのだが，なかなかまねのできることではない。）

今回の出張では，今まで述べてきたように会議の運営方法・会議場周辺の雰囲気・参加者の態度等，深く考えさせられる点も多かったが，その他に（あるいはそのこと以上に）ヨーロッパの友人達との再会は何物にも代えがたいすばらしいものであった。IIASAの横の森の中で色々な国の研究者達と気が狂っ

たようにソフトボールに興じたことや，一ヶ月半後に奥さんが出産予定にもかかわらずわざわざ私のためにすばらしいフランス料理を御馳走してくれたF.Delebecque（私が6年前に約11ヶ月滞在していたフランスINRIA研究所の研究者）一家のことや，さらには，恐ろしいライックスの虫にかまれるのではと〝ビクビク〟しながらW.Grossman（IIASAの研究者）の一家と何時間も歩きつづけたウィーンの森のことなど，3ヶ月程経った今でも昨日のことのように鮮やかに思い出される。

約1ヶ月という短かい期間ではあったが，今回の海外出張は前回のフランス及びオーストリアでの長期滞在に勝るとも劣らぬ程の有意義なものであった。徳島大学工学部関係者の方々，会議の企画グループの方々，IIASA研究所の関係者の方々に，改めて謝意を表したい。　（工学部情報工学科　助教授）

附属図書館の増築について

附属図書館

徳島大学広報53号（1985.7）に既報のとおり白壁のずっしりとした三階の建物が昭和60年3月25日に竣工しました。（8頁参照）

その後夏休みの期間を利用して約20万冊の図書等の移動も完了し，9月初旬から増築部分の利用が行われるようになっております。この増築によって従来の建物（旧館）と，増築部（新館）を含めて利用形態の変った点を紹介しておきます。

一　階

旧館の一階は，大きい変化はありません。

新館の一階全体が書庫となり，約26万余冊が収容可能な機械式手動集密書架が設置されており，図書の種類として総記・社会科学・自然科学・工学技術・産業に属する図書が配架され，今年度内に増設される予定の部分の書架には旧館書庫4層に配架されている欧文雑誌をすべて配架したいと考えております。

二　階

旧館の変った点

1．玄関を入ってすぐ右側にロッカールームができました。
2．指定図書の移動　三階閲覧室も含めて指定図書はすべて新館の二階開架閲覧室へ配架しました。
3．参考図書室の新設　目録カードの並んでいた場所が模様替えされて各種のツールを配架しました。
4．談話室の新設　入館して新館の方への通路左側にあります。喫煙の場所として利用してください。
5．目録ホール　談話室の隣に移っております。その内容は従来と変っておりません。

新館の二階

新館の二階は開架閲覧室です。指定図書のすべてと名著講読用図書の一部が配架され，更に必要最小限度ではありますが，辞書類も備えつけてあります。新館としてこの階だけですが手洗いが設けられております。

三　階

旧館の変った点

1．学生自習室　従来，教官・院生閲覧室であった部屋です。
2．新聞閲覧室・ブラウジングルームの新設　従来各大学等の研究報告類を配架して雑誌閲覧室として利用されていた場所ですが，増築に伴って電気設備等の拡張が必要となり一階新聞閲覧室が閉鎖されました為に新

設したものです。

新館の三階

1．研究雑誌閲覧室　従来の教官・院生閲覧室が手狭まとなったことで学術雑誌が充分に配架できて，居住環境のよいこと，複写機も設置できることなどを考慮に入れて新設したもので一層の利用を期待している部屋でもあります。

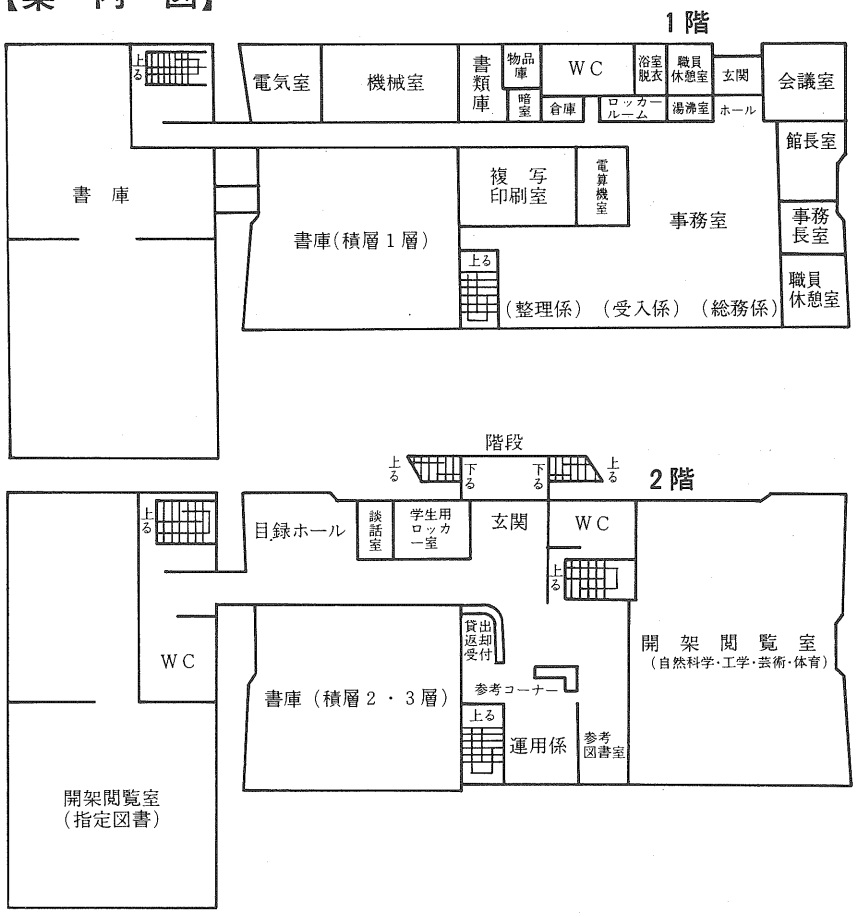
2．視聴覚室　機器・媒体の多様化の中，最も気をつかわなければならない部屋の新設でした。準備室の設置，遠隔操作の設備など利用のしやすいものとして整えて行きたいと考えており，完成すれば定期的な利用の計画も企画したいと思っております。
収容人員は椅子席で100名が可能な部屋です。

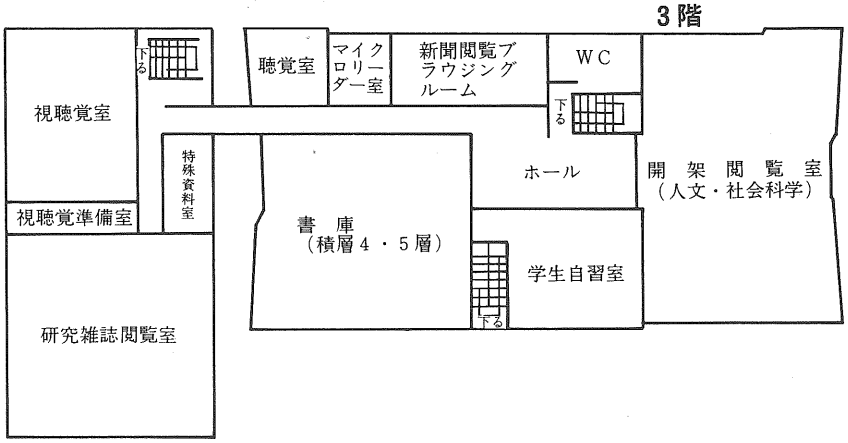
3．特殊資料室　書庫の中で，一般の図書等と同じに配架していてはその管理が困難である貴重な資料を収容するのが目的で新設されたものです。今後目録の充実，利用要項などを作成し，その利用に落度の起らないように進めて行きたいものと考えております。

以上，書庫等の増築にあたって旧館の変った点並びに新館の概略を記しました。まだまだ書庫等の階層，書架上の図書の配置などについて触れておかなければならない点もあるかと思いますが，紙数の都合上割愛しました。

詳細なことは，現場の標示などによって利用していただき，不備なことなどを教えていただければありがたいと思います。

【案　内　図】





第6回附属図書館文化行事開催される

今回の文化行事は，「複刻本の展観―絵本・教科書から学術書まで―」をテーマとして，11月7日(木)から11月13日(水)まで新館三階の視聴覚室を使用して開催されました。

出版後長期にわたって，焼失，散逸を免かれた稀覯本といわれる貴重な資料は，ある特定の者の所蔵となり，一般にはその利用が困難となっていましたが，複製・印刷技術の発達により，それらの貴重な資料が研究者の手近なものとなってきました。

そこで当学に所蔵するそれら復刻された資料のすべてを展示し，どのような資料がどのような形で甦みがえってきたかを見ていただくために，国内で復刻刊行された図書429点，逐次刊行物53点，復刻本に対して原本を所蔵するもの数点，更に教育学部本多教授所蔵の原本「雑誌スバル」をはじめ数点を借用し，復刻本と対称展示しました。

また，復刻本が出版社によってどのような工程で刊行されているかを，雄松堂の協力によって工程ごとの資料の提供を受け，そのノウハウをパネルと共に展示し参考に供しました。

なお，文化行事の開催期間中の9日(土)，10日(日)は一般公開日としました。9日のＮＨＫニュースで2回にわたり報道され最終11月13日(水)までの参観者は227名で，そのうち学外からの参観は55名を数え盛会でありました。

この行事を開催するにあたっては，教育学部本多教授，教養部戸田教授の御協力を得ました。紙上を借りまして謝意を表します。

昭和61年版購読雑誌の動き

常三島地区

新規購読雑誌

1.	電子通信学会技術研究報告「画像工学」	工（情　処）
2.	〃　「パターン認識と学習」	工（情　処）
3.	英語教育（開隆堂）	教（英　文）
4.	ＥＳＰ	教（経　済）
5.	ファイナンス	教（経　済）
6.	インターフェイス	工（電子３）
7.	情報処理学会研究会資料「コンピュータビジョン」	工（情　処）
8.	経済地理学年報	養（地　理）
9.	経済政策情報	養（経　済）
10.	日銀調査月報	教（経　済）
11.	日本語学	教（国　教）
12.	日経ＡＩ	工（精密５）
13.	日経エレクトロニクス	短（電子１）
14.	日経マイクロデバイス	短（電子１）
15.	日経ニューマテリアル	短（電子１）
16.	財政金融統計月報	教（経　済）
17.	税経通信	教（経　済）
18.	Control Theory and Advanced Technology. (JPN)	工（電子４）
19.	Houston Journal of Mathematics. (US)	工（工数２）
20.	International Journal of Electronics. (US)	工（電気１）
21.	Journal of Differential Equations. (US)	工（電子１）
22.	Journal of Royal Statistical Society. Ser. A, B & C. (UK)	短（生産２）
23.	Journal of Vaccum Science and Technology. Ser. A & B. (US)	短（電子１）
24.	Literature and History. (UK)	教（英　文）
25.	National Tax Journal. (US)	教（経　済）
26.	New German Critique. (US)	養（社　会）
27.	Non-Linear Analysis. (UK)	工（電子１）
28.	Past and Present. (UK)	養（法　学）
29.	Physica, D. (NE)	工（電子１）
30.	Quistions and Answers in General Topology. (JPN)	工（工数２）
31.	Social Research. (US)	養（社　会）
32.	Soziale Welt. (GW)	養（社　会）
33.	SIGGRAPH-Computer Graphics. (US)	工（情　処）
34.	Simulation and Games. (US)	工（情報２）
35.	Superlattices and Microstructures. (UK)	短（電子１）
36.	Symbolic Interaction. (US)	養（社　会）
37.	Topology Proceedings. (US)	工（工数２）

購読中止雑誌

1.	アイデア	教（美　術）
2.	季刊アート	教（美　術）
3.	美術手帖	教（美　術）
4.	bit	工（情処センター）

5.	文献ジャーナル	養（法　学）
6.	電子材料	教（工　学）
7.	英語教育研究	教（英　文）
8.	芸術新潮	教（美　術）
9.	現代教育科学	教（養　護）
10.	保健の科学	教（養　特）
11.	保健室経営追録	教（養　特）
12.	法律判例文献情報	養（法　学）
13.	授業研究	教（養　護）
14.	からだの科学	教（養　特）
15.	コンピュートピア	工(情処センター)
16.	紅楼夢学刊	養（文　学）
17.	公衆衛生	教（養　特）
18.	教育学研究紀要	教（英　文）
19.	教育情報総覧追録	教（英　文）
20.	教育心理学年報	教（英　文）
21.	教育と情報	工（情　処）
22.	ＮＨＫテレビ　アンニョンハシムニカ	養（文　学）
23.	ＮＨＫラジオ　中国語講座	養（文　学）
24.	ＮＨＫラジオ　ドイツ語講座	教（教　育）
25.	ＮＨＫテレビ　英語会話Step Ⅰ	教（教　育）
26.	ＮＨＫ　〃　〃　Step Ⅱ	教（教　育）
27.	ＮＨＫ　〃　〃　Step Ⅲ	教（英　文）
28.	日本美術工芸	教（美　術）
29.	作文と教育	教（国　数）
30.	陶芸四季	教（美　術）
31.	Transactions of the Japan Institute of Metals. (JPN)	工（精密３）
32.	Annals of Physics. (US)	教（物　理）
33.	Applied Mathematical Modelling. (UK)	工（情　処）
34.	CA Selects: Carbon & Heteroactom NMR. (US)	養（化　学）
35.	CA Selects: Proton, Magnetic Resonance. (US)	養（化　学）
36.	Die Deutsche Schule (GW)	教（教　育）
37.	Education Permanente. (FR)	教（教　育）
38.	Electronics Letters. (UK)	教（工　学）
39.	Flash Art. (IT)	教（美　術）
40.	Geotimes. (US)	養（地　学）
41.	Graphis. (SZ)	教（美　術）
42.	Houille Blanche. (FR)	工（建設２）
43.	IBM Systems Journal. (US)	工(情処センター)
44.	Journal of Applied Mechanics and Technical Physics. (US)	図　書　館
45.	Journal of Approximation Theory. (US)	工（工数１）
46.	Journal of Differential Equations. (US)	工（電子４）
47.	Journal of Number Theory. (US)	教（数　学）
48.	Journal of Power Sources. (SZ)	図　書　館
49.	Journal of Royal Statistical Society. Ser. A, B & C. (UK)	工（情　処）
50.	Das Kunstwerk. (GW)	教（美　術）
51.	Mathematical Reviews. (US)	教（数　学）

52. Modern Plastics International. (US) 図 書 館
53. Nature. (UK) 教（物 理）
54. Non-Linear Analysis. (UK) 工（電子４）
55. Novum Gebrauchsgraphik. (GW) 教（美 術）
56. Nuclear Tracks & Radiation Measurements. (UK) 養（物 理）
57. Physica, D. (NE) 工（電子４）
58. Quarterly of Applied Mathematics. (US) 工（電気１）
59. Revue Francais de Sociologie. (FR) 教（教 育）
60. Soviet Applied Mechanics. (US) 図 書 館
61. Soviet Physics-Acoustics. (US) 短（機械１）
62. Soviet Physics-JETP. (US) 教（物 理）
63. Welding Journal. (US) 工（精密３）

蔵本地区

新規購読雑誌

1. 徴生物 （細菌，口細菌）
2. 病理と臨床 （口病理）
3. Dental Diamond. （一口外）
4. 医学のあゆみ （中検）
5. 医学と薬学 （薬剤部）
6. ＪＯＨＮＳ （難聴）
7. 感染・炎症・免疫 （寄虫）
8. 免疫薬理 （寄虫）
9. 熱 傷 （皮膚）
10. 日本形成外科学会雑誌 （皮膚）
11. ペインクリニック （歯麻診）
12. トランジスタ技術 （一補綴）
13. Acta Neuropathologica. (GW) （脳外）
14. American Journal of Dermatopathology. (US) （一病）
15. American Journal of Surgical Pathology. (US) （二外）
16. American Review of Respiratory Diseases. (US) （三内）
17. Appetite. (US) （栄生）
18. Archives of Virology. (AU) 図 書 館
19. Biomaterials. (UK) （歯理工）
20. Circulation. (US) （小児）
21. Clinical Microbiology Newsletter. (US) （口細菌）
22. Current Contens: Clinical Practice. (US) （歯放射）
23. Current Contens: Life Sciences. (US) （二病）
24. Dental Materials. (DK) （歯理工）
25. European Journal of Respiratory. Diseases. (DK) （三内）
26. Gene. (NE) （細菌）
27. Histopathology. (UK) （一病）
28. International Journal of Biochemistry. (UK) 図 書 館
29. Journal of Microbiological Methods. (NE) （口細菌）
30. Journal of Neurocytology. (UK) （口二解）
31. National Geographic Magazine. (US) 図 書 館
32. Neuroscience Letters. 図 書 館

33. Prostate. (US) (泌尿)
34. Vox Sanguinis. (SZ) 図 書 館

購読中止雑誌

1. 遺 伝 (寄虫)
2. 医学のあゆみ (寄虫, 一口外)
3. インターフェイス (一補綴)
4. 実験医学 (口生化)
5. 化学と生物 (栄生)
6. 日本医事新報 (一内, 三内, 一口外)
7. 日本胸部外科学会雑誌 (一外)
8. 生体の科学 (一口外)
9. 代 謝 増刊不要 (口生化)
10. 蛋白質・核酸・酵素 別冊, 臨時増刊不要 (口生化)
11. American Journal of Obstetrics and Gynecology. (US) 図 書 館
12. Annual Reports on Analytical Atomic Spectroscopy. (UK) (分析)
13. Antimicrobial Agents and Chemotherapy. (US) 図 書 館
14. Archives of Virology. (AU) (ウイルス研)
15. BBA; Reviews of Bioenergetics. (NE) (微薬)
16. Bio-System. (IE) (一生)
17. Current Contents; Life Sciences. (US) (三内)
18. Dental Abstracts. (US) 図 書 館
19. Exercepta Medica. (NE) 図 書 館
20. General and Comparative Endocriniology. (US) (二解)
21. Index to Dental Literature. (US) 図 書 館
22. International Journal of Systematic Bacteriology. (US) 図 書 館
23. Journal of Dentistry for Children. (US) 図 書 館
24. Journal of the International Association of Dentistry for Children. (UK) 図 書 館
25. Journal of Pedodontics. (US) 図 書 館
26. Metals Abstracts. (US) 図 書 館
27. Pediatric Cardiology. (GW) (小児)
28. Physiological Review. (US) (一生)
29. Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive. (SW) 図 書 館
30. Schweizerische Monatschrift Zahnheikunde. (SZ) 図 書 館
31. Steroids Receptor. (UK) (一解)
32. Surgical Gastroenterology. (US) 図 書 館

出 版 国 略 名 表

AU	オーストリア	NE	オランダ
DK	デンマーク	SW	スエーデン
FR	フランス	SZ	スイス
GW	西ドイツ	UK	イギリス
IE	アイルランド	US	アメリカ合衆国
IT	イタリー		

会　　議

附属図書館運営委員会

○第３回　昭和60年５月20日(月)（於：本館）

議　題

１．昭和59年度附属図書館経費決算書について

２．昭和60年度附属図書館経費所要額(案)について

３．館長候補者の投票方法等について

○第４回　昭和60年６月24日(月)(於：蔵本分館)

議　題

１．館長候補者の選出について

○第５回　昭和60年７月８日(月)（於：本館）

議　題

１．分館長候補者の選出について

○第６回　昭和60年７月22日(月)(於：蔵本分館)

議　題

１．昭和60年度学生用図書購入費配分(案)について

２．昭和60年度参考図書購入費配分(案)について

３．昭和60年度教養図書購入費配分(案)について

○第７回　昭和60年10月７日(月)(於：蔵本分館)

議　題

１．附属図書館長選考規程の一部改正について

２．附属図書館分館長選考規程の一部改正について

３．附属図書館長の評議員としての参加について

○第８回　昭和60年11月18日(月)(於：蔵本分館)

議　題

１．附属図書館長選考規定の一部改正について

２．附属図書館分館長選考規則の一部改正について

３．附属図書館長の評議員としての参加について

目　　次

附属図書館長に就任して……1
ベビーブームの波間で思うこと……3
本学教官著作寄贈図書……5
〝ある国際会議に出席して〟……6
附属図書館の増築について……7
第６回附属図書館文化行事開催される……9
昭和61年版購読雑誌の動き……10
会　議……14
カード式複写機の利用案内……14

カード式複写機の利用案内

附属図書館本館では，研究雑誌閲覧室に備付けの複写機の利用を昭和60年12月から始めました。

この複写機は，磁気カードを使って利用者自身で複写するもので，今までのように煩雑な手続きは不要です。磁気カードは，二階カウンターに用意してありますので，ご利用の際お申し出ください。

なお，この複写機は，校費によるもののみ取り扱っています。

編集：発行　　徳島大学附属図書館

（〒770）　徳島市南常三島町２丁目１番地　徳島（0886）23－2310　内線(6111)